

平成 29 年度 翔政会 視察報告書

1. 11 月 14 日 (火)

視察地

①神奈川県秦野市

「公共施設再配置計画について」

11 月 15 日 (水)

②東京都 B & G 財団

「B & G 財団の取り組みと常滑市への活用について」

2. 視察者

稲葉民治 (代表) 中村崇春 伊奈利信 森下宏 加藤久豊

3. 視察行程表


平成 29 年 11 月 14 日 (火)

常滑駅	名鉄空港線
名古屋駅	ひかり 512 号
小田原駅	小田急小田原線
秦野駅	
秦野市視察	公共施設再配置計画について
秦野駅	小田急小田原線
ホテル	ホテル ザ・ビー 三軒茶屋 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂 2-17-9 Phone: 03-3795-0505 Fax: 03-3419-0690

平成 29 年 11 月 15 日 (水)

ホテル	
神谷町駅	
B & G 財団視察	B & G 財団の取り組みと常滑市への活用について
虎ノ門駅	東京メトロ銀座線、都営浅草線エアポート
羽田空港駅	
羽田空港	
中部国際空港	名鉄空港線
常滑駅	

1. 視察報告

視察①	
視察地	神奈川県秦野市
視察日時	平成 29 年 11 月 14 日 13 時 00 分から 15 時 30 分
視察目的	秦野市公共施設再配置計画について調査研究
説明者	秦野市担当者
調査趣旨	<p>神奈川県秦野市は、中長期的視点から、公共施設の適正な配置と効率的な管理運営を実現し、超高齢化と人口減少が進む中でも、必要性の高い公共施設サービスを将来にわたり持続可能なものにするを目的とし、平成 20 年 4 月から取り組んでいた。</p> <p>この問題はどの自治体でも大きな関心ごとであるが、秦野市では全国でも先駆けて取り組まれていたことから、大変有意義な視察内容となった。</p> <p>研修内容では、秦野市の取り組みに合わせ、常滑市の公共施設再配置及び更新に関するデータから分析したアドバイスもいただいた。</p>
写真	
質疑	<p>問・公共施設の再配置等により住民感情もあったと思うがどのように対処したか。</p> <p>答・地元の皆さんの意向を十分踏まえつつしっかりと説明に努めた。</p>
所感	<p>(稲葉) 常滑市では、過去に事業仕分けを行ったことがあった。そのときから私は、公共施設の更新問題に関心を持っていた。ある方から「朽ちるインフラ、忍び寄るもうひとつの危機」という本を紹介された。本の中で問題に取り組んでいる先進地の中に、秦野市があり、前々から視察を行いたいと思っていた。担当の職員の立て板に水のごとしの説明を聞き、聞きたいことが次々と現れてきて、時間が短かった。</p>

一番の驚いたことは、白書を職員自身で作成していたことである。その白書に基づいて公共施設の再配置の原則を策定して、市民に対して十分に説明をした上で進めていた。これを進める大原則は次の5項目である。

- ①公共施設の利用状況、費用内訳、老朽化状況を徹底的に分析して、公共施設としての優先順位を付ける。
- ②原則として、新規の公共施設は建設しない。
- ③原則として、優先とされない公共施設は廃止し、余剰地を転用、売却する。
- ④優先されるべき公共施設は、老朽化している場合には、早い時期に更新する。
- ⑤更新する際、施設の統廃合、施設の多目的化、PPP(公民連携)の導入などの工夫によってできるだけ機能を維持しつつ、できるだけ更新負担を圧縮する。

(中村) 公共施設の更新化問題は痛みを伴う問題であり、どこの自治体でも先送りしたい問題と思う。しかし、秦野市はそこから目を背けず、正面から取り組む姿勢は、常滑市も大いに参考すべきと考える。

遅くなればなるほど、将来の負担は増すため、早い決断が必要であると感じた。

(伊奈) 先進的に取り組まれた事例を分かりやすく説明いただき、また常滑市の施設情報を入れ込んだ資料をもとに説明をいただき、とても参考になった。

公共施設の更新・再配置は地域(区、住民、子供)を巻き込む大きな取り組みであり、実施に向けて理解を求めることが重要なポイントだと感じた。


(森下) 秦野市は、全国に先がけて公共施設再配置計画に取り組んでおり、参考にすべき事例などが多くあった。

要点としては、再配置による財政体験・市民との合意プロセスなどがあった。

(加藤) 先進地である秦野市の取り組みはとても参考になった。特に公共施設の更新など今取り組まなければ将来大変な負担になるとの思いから、丁寧な説明に心がけているようだった。

当日は常滑市の公共施設の資料も事前に作成いただき、資料を見ながら常滑市の公共施設の整備計画についてお話をいただいた。

常滑市への反映	<p>(伊奈) 公共施設の更新・再配置については、しっかりとした計画をもとに進められたい。</p> <p>費用的な財政状況はもちろんであるが、施設利用や地域住民、地元区等の理解を重要視され、慎重に進められたい。</p> <p>(森下) 常滑市議会でも再配置計画は、今年度委員会をつくり何回も協議や資料の検討を行った。秦野市は、先行しているので財政面などいろいろな点で参考になった。</p> <p>(加藤) 常滑市の公共施設更新問題は大きな課題であり、先進地の取り組みを参考に今後の政策提案に努めたい。</p>
---------	--

視察②	
視察地	B & G財団
視察日時	平成 29 年 11 月 15 日 10 時から 11 時 30 分
視察目的	B & G財団の取り組みと常滑市への活用について調査研究
調査趣旨	<p>B & G財団は、青い海（ブルーシー）と緑の大地（グリーンランド）を活動の場として、海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動などを通じて、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者まで国民の心とからだの健康づくりを推進していた。</p> <p>この財団は、モーターボート競走法 20 周年を記念して 1973 年に設立され、施設づくりや指導者育成、海洋性レクリエーションの提供を柱にこれまで、1,400 億円を投資し、全国の市町村に地域海洋センターを建設してきた。愛知県内にも 5 カ所の施設を持つ。現在は、施設整備からソフト事業に転換していた。</p> <p>2014 年に、新 5 カ年計画『青少年の健全育成推進計画』を策定し、新たな時代に相応しい青少年の育成とともに、地域活性化に貢献するための「地域コミュニティの活性化事業」や、家庭・経済・身体などの理由に左右されず誰もが参加できる「体験格差解消事業」などを推進し、B & G海洋センター多機能化に向けた各種事業をスタートさせていた。</p> <p>今回の視察で、B & G財団の取り組みなどを調査する過程から、常滑市へのまちづくりにどのように生かせるか模索する機会とした。</p>
説明者	B & G財団関係者
写真	
質疑	<p>問・各施設とも地元を活用しているようだが、運用はどうか。</p> <p>答・地域の子供たちを招いてのイベントなども行っており、好評だ。</p> <p>問・新しい施設整備などないようだが、今後の取り組みはどうか。</p> <p>答・新施設はつukらない。今ある施設の有効活用を考えている。</p> <p>問・活動が伝わらないことが多いが P R 方法はどうか。</p> <p>答・今後努めていきたい。</p>

<p>所感</p>	<p>(稲葉) はじめてB&G財団を視察したので、多くのことを知ることができた。過去には施設づくりでボートレースの収益金により、全国480自治体に地域海洋センター(プール・ボートハウス、体育館)を建設し、地元自治体に無償譲渡していた。現在は、海洋センターを従来のスポーツ振興の場だけでなく、子供から高齢者、障害者など「誰もが気軽に集える場」へとシフトし、地域の活性化に取り組み、また、ひとり親家庭や児童養護施設をはじめ、機会に恵まれない子供たちに自然体験活動の場を提供する「体験格差解消事業」など多くの事業に感銘を受けた。</p> <p>(中村) 海や水にかかわる事業を行っているので、常滑市も十分に活用できると感じた。水の楽しさと恐ろしさを子供たちに知ってもらうことは、とても有意義であるし、何らかの形でB&G財団の事業を常滑市で行いたいと考える。</p> <p>(伊奈) 財団の設立から取り組みまで紙資料と映像により、分かりやすく説明を受けた。</p> <p>(森下) モーターボート関係の投資により、多くの海洋性レクリエーションや自然体験を行っていることがよくわかった。 また、全国で471カ所の施設が稼働しているとのことだった。</p> <p>(加藤) 初めてB&G財団の取り組みを視察したが、B&G財団所有の施設が常滑市にないことから知らなかったこともよく知ることができた。各地域の子供たちの健全育成や水難救助など献身的な活動が伝わった。</p>
<p>常滑市への反映</p>	<p>(伊奈) モーターボート競走施行者である本市とのかかわりは今後の課題と言える。 海、山などの自然環境を生かした取り組みやイベントなどで接点を持ってないか考えたい。</p> <p>(森下) 常滑市では、備品などの提供くらいであまり関係は深くないようだが、今後もっと協力していただけるよう努力したい。</p> <p>(加藤) 効果的な市への反映は模索すべき課題だと感じたが、子供たちの健全育成などのイベントはB&G財団の協力なども可能であると感じた。</p>